

第7回山ノ内町立適正規模適正配置等審議会 議事要旨

(開催日時・場所・出席者)

日時 令和6年12月20日(金) 午後5時00分～6時50分

場所 山ノ内町文化センター 2階 学習室

出席者 (委員)

・出席委員 19名

会長 原 隆文 (元小学校長)
副会長 佐藤 重子 (主任児童委員)
宮澤 昭雄 (東小学校PTA会長)
中島 学 (西小学校PTA会長)
小泉 一真 (ほなみ保育園保護者会長) ※代理出席
杉戸 香奈 (よませ保育園保護者会長)
丸山 恵美子 (すがかわ保育園保護者会長)
畔上 三行 (区長会会長・宇木区長)
芦原 喜久司 (区長会副会長・上条区長)
内田 健一 (区長会副会長・穂波温泉区長)
湯本 文洋 (東小学校長)
中村 まゆみ (南小学校長)
山口 近 (山ノ内中学校長)
鈴木 隆夫 (町子ども会育成連絡協議会長)
高田 佳久 (町議会議員 社会文教常任委員長)
西澤 誠一 (公募委員)
佐藤 匡則 (公募委員)
田中 晴男 (公募委員)
湯本 市蔵 (公募委員)

(事務局)

山ノ内町教育長 竹内 延彦

山ノ内町教育委員会事務局 教育次長兼こども未来課長 望月 弘樹

山ノ内町教育委員会事務局 こども未来課 学校統合準備係長 山本 敏幸

山ノ内町教育委員会事務局 こども未来課 学校統合準備係 畔上 俊樹

欠席者 (委員)

高相 慎吾 (南小学校PTA会長)
高相 大作 (志賀高原保育園保護者会長)
宮崎 未希 (かえで保育園保護者会長)
下田 清人 (区長会副会長・須賀川区長)
竹内 由紀 (西小学校長)

傍聴者 7名 報道関係 2社

1. 開会 （望月教育次長）

2. 会長あいさつ （原会長）

- ・本日の北信ローカルに飯山市の4小学校統合の記事が記載されていたが、隣接する城北中学校と連携し質の高い教育を行う小中連携カリキュラムとして、英語教育、ICT教育、ふるさと学習などを実施するとともに、高学年において教科担任制の導入、小中一体型のコミュニティ・スクールとして地域と学校の連携を強化していくとのことであった。現在、多くの地域で学校統合の議論が行われているが、どの地域でもこれらの内容を取り上げて議論を進めている状況である。
- ・学習指導要領は10年間隔で改定されており、教科書や時間割などはこの内容により作られ、先生方も学習指導要領に則って授業を行っている。現行の学習指導要領は令和2年度から実施される中、こどもに主体的、対話的で深い学びができるようにすることや社会に開かれた教育課程の実現を目指すこと、カリキュラムマネジメントの確立などが認められ、言語能力の育成やプログラミング教育や英語教育などの内容の充実を図るように求められており、現在の学校もこれらの内容を踏まえて、ふるさと学習やコミュニティ・スクールの体制構築や学校評価、教師間の連携、管理者マネジメントなどを行っている。
- ・山ノ内町こどもワクワク教育未来ビジョンも学習指導要領を見据えて作られており、全ての地域が横並びになる必要はないと思っているが、文部科学省は施策として教科担任制度の強化、拡充を図っていくことが今年の話題として取り上げられており、学習指導要領のポイントをしっかりと見据えて議論していくことが必要である。
- ・当審議会も会議を重ねて7回目となった。議論をまとめる時期が迫ってきているので、審議が深まるよう発言をお願いしたい。

3. 会議事項 （議長 原会長）

- ・山ノ内町立小学校適正規模適正配置等審議会条例第6条により原会長が議長となる。

(1) 山ノ内町こどもワクワク教育未来ビジョンについて

(2) 義務教育学校について

(原会長)

- ・本日は山ノ内町こどもワクワク教育未来ビジョンと義務教育学校について、これまで配布された資料を基に議論を進めていくことでよろしくをお願いしたい。

(事務局)

- ・当初、答申案について議論する予定であったが、前回会議でまだ議論が深まっていないといった意見があったことから、特に山ノ内町こどもワクワク教育未来ビジョンと義務教育学校について、どのような内容なのか分かりづらい点などがあれば、質問等を受けながら議論を進めていきたいと考えている。

(委員)

- ・今日の会議の趣旨がよくわからない部分もあるが、こどもワクワク教育未来ビジョンがいかどうかということについて、中学校へ義務教育学校を作るといった関連の前段としてビジョンがあるとするのであれば疑問がある。
- ・昭和22年から小学校6年、中学校3年と別々でやってきている中で、小学5、6年生は急速に成長する時期である。高学年という自覚をもって成長する過程が大事であると思うので、中学生と一緒にすればよいという考えは疑問である。

(委員)

- ・7回会議を行っているが、どのように答申をまとめていくのか分かりづらい部分がある。当初、教育委員会から小中一貫に関することや2段階統合について投げかけられ審議してきたと思う。2段階統合については審議会や保護者懇談会の意見でこどもや保護者に負担が大きいということで反対になったと受け止めている。
- ・小学校の統合は、北小が西小と統合した次は3校を1校統合するという話が10年前からあり、その中で中学校敷地にする話が出ていたと思う。義務教育学校の提案があったが、私としては中学校での統合は厳しいと思っている。
- ・小学校6年間は非常に重要な位置を占めており、6年間のけじめを大事にしてほしい。保育園から希望をもって小学校に入学し、1年生から仲間と共に6年間立派な姿になっていくところを見てこどもたちが育っていくと思う。6年生の最高学年になって運動会などでみんなを引っ張る成長した姿を見せ、卒業式には中学校の制服を着て式に臨み、中学生になるという節目や使命をこどもたちにしっかり持ってほしいと思う。
- ・10年も同じ議論をやっているのであれば、3校を西小へ1つに統合して、こどもたちが仲間と一緒に勉強をする環境を早く進めてほしい。
- ・こどもワクワク教育未来ビジョンの内容をよく読めば、今3小学校で行っていることをさらにバージョンアップすれば素晴らしい教育になり、このビジョンに匹敵する内容になると思う。
- ・予算など長期的に見ても今の中学校に統合学校を作るということは非常に厳しいと思う。西小学校であれば早くみんなと学ぶことができ予算も抑えられるので、中学校はデメリットが多いと思う。中学校は現在の場所に、新しい中学校にしていく考え方で残しておくような計画でよいと思う。

(原会長)

- ・こどもワクワク教育未来ビジョンが示された経緯は、新しくできる学校でどのような教育をしていくのかということについて、教育内容があれば議論は深まるのではないかとということを出されたものである。
- ・そのビジョン中で9年間の小中一貫を見据えて意見が出ているが、先ほどの意見は、小学校と中学校は一緒ではないほうがよいという意見であった。これに対して小中一貫を進めるべきという意見があったら発言してほしい。

(委員)

- ・保護者の立場で発言をすれば、小中一貫の中学校敷地での統合が良いと思っている。前の資料の中で、今後の児童数を見ると5年後には町内のこどもが78名減少する。今年から比較して21%減少することが目に見えている数字であり、統合していくことは仕方ないことだと思う。
- ・PTAは3小学校で分かれている。3校が統合することでPTAの保護者負担が減り、PTA組織も新しくなることで色々なやり方が出てくると思う。
- ・こどもワクワク教育未来ビジョンのグローバル教育について、温泉街の街中を歩いている外国人観光客が多い。今の時代はグローバル化や異文化交流など国際化の波がこの町に来ていると感じるので、グローバル教育を進めていくのは大賛成である。
- ・9年間の学びとして小中一貫を最大限発揮するためには、中学校併設の義務教育学校が良いと考える。

(委員)

- ・4つの学びを実践していくため義務教育学校の形で実現をしてほしい。山ノ内町の教育モデルをしっかり周知して、人がやってみたいという学校環境を作っていければと思う。
- ・先ほどの意見にあったが、町には温泉街や地獄谷野猿公苑があり、世界中の人たちが足を運んでいるのでグローバル教育ができる実践の街だと思う。この町の地域資源の中には、これからのこどもたちが未来を歩んでいくために必要な今身に付けられるスキルを、たくさん学べる環境があると思うのでぜひ進めてほしい。

(委員)

- ・通学路の関係で、歩いて通える範囲に学校があることは非常に大事なことと感じているが、こどもたちは大部分学校で過ごすこととなる。歩いて通えるというのが今までの形なのかもしれないが、今はそのような時代ではないと思う。グローバル化が進めば進むほど変ではないかを感じる。
- ・私自身は中学校に統合学校と作るという意見に賛成である。西小を改築して3校統合する案や南小と西小の2校体制でしばらく進める案とコスト比較をすると、新築によるインシヤルコストがかかるかもしれないが、ランニングコスト含め長期的なことを考えれば、いずれの案もコストに大きな差は出ないのではないかと感じている。
- ・節目の話が出ているが、50代以上の私たちの世代が節目は大事といているように感じる。私自身こどもだった頃、節目を大事にしていたという感じはあまりなく、卒業式等で感動して泣いた記憶もない。親となってこどもの卒業式を迎えたときは涙が出た。
- ・こどもたちにとって中一ギャップのような節目でぶち当たる壁のほうが、今の時代大きな課題と思うので節目にこだわる必要があるのかわからない。
- ・今一番課題になっているのは、こどもたちの心の成長や視点の広さなど心の問題だと思う。こどもたちが議論をしているときに、違う意見に対してどのように考え、どのように対応するのかというのが大事だと思う。自分の意見はしっかり述べてほしいが、全く相手の意見を聞かないということでは困る。そのようなバランス感覚や高い視座、視点、価値観などをたくさん学んでほしい。

- ・従来の考えで議論が進むことはすごく反対であり、若い人の新しい感覚、価値観をもってみんなで変えてほしい。こどもに一番近い方たちは保護者であり、若い人の意見をもっと尊重してほしい。「こどもまんなか」というのがなりよりも大事である。

(委員)

- ・信濃町視察資料の内容を見ると、町の目指す義務教育学校は中山間統合型小中一貫教育になると考えている。山ノ内町の学校統合にあたっては、4つの学びを主体に進めていくという方向であるが、先ほど会長が飯山市の話をしたがよくある内容にしか感じない。山ノ内町が4つの学びを進めていくのであれば、より具体的でインパクトがある小中一貫校にしていくことを審議会で教えてもらいたい。
- ・委員に意見を聞くのはよいが、AにするかBにするかを審議するところであって、小中一貫校がどうかについて意見を聞くところではない。10年も同じことをやってきて今も決まっていないと思う。教育委員会として「4つの学びをより押し進めるためには小中一貫が望ましいと考えるが、AとBで迷っているので意見が欲しい」と求められれば意見も言えるが、大きな括りで意見を求められても意見が出せない。
- ・1月に2回ある審議会の中で、山ノ内町はどのような小中一貫校を推し進めていくのか教えてもらえないと判断のしようがないと思う。中学校の変遷を考えると、小学校も中学校にあると角が立たないと思うが、小中一貫校の方針がないと意見も判断も出せないと思う。個人的には、費用が掛からず広い校舎が良いと思うが、それが中学校敷地なのか、西小と中学で別れたほうが良いのか方針がないためどちらを選択していいかわからない。

⇒ (事務局)

- ・教育委員会の考えとしては、こどもワクワク教育未来ビジョンにあるように4つの学びを柱に、義務教育学校として9年間の学びの中で、小中学校が一緒になった学校整備を進めていきたい。場所については、中学校または西小学校のいずれかが考えられるが、建設にかかるコストや教育環境、通学の面などを考慮して教育委員会が判断していく。
- ・義務教育学校による9年間の教育が望ましいかどうかという部分で委員の方から意見をいただきたい。

(委員)

- ・最初にも発言したが私は小中一貫に対して否定していない。小学校と中学校が離れていても小中一貫はできる。小中一貫は非常に良いと思っている。
- ・義務教育学校は小中が一体化しないと実現が難しい方式である。信濃町立信濃小中学校の場合は児童生徒の減少と合わせて学校施設の耐震化の問題があったことで、中学校敷地に新しく小中学校を整備することができたが、山ノ内町の場合は小中学校も耐震化の問題はなく、信濃町との状況が違う。
- ・信濃小中学校と山ノ内中学校敷地はほぼ同じ面積であるが、信濃町の方が計画的に配置整備されているのに対し、山ノ内中学校は長寿命化工事が終わっており、既存校舎ある状態で増改築しなくてはならないので自由度がない。30年以降で中学校を建て替える際に小中一緒にするのが一番よいのではないか。それまでは西小と南小の2校を残すことで、通学も問題なく通うことができると思う。

- ・北小がなくなった際も100数十年の歴史を閉じることは大変苦しいことだったと思う。それが統合によって3小学校の今までの歴史を全てなくしてしまうのはまだ早いと思っている。

(委員)

- ・小中一貫教育は今も行っているが、より今のこどもたちに将来必要な学びを考える上で、同じ敷地の方がやりやすく効率的な教育ができるから敷地と一体である義務教育学校がよいと思っている。
- ・信濃町と同じことをやろうと思っているつもりではなく、信濃町は土地や校舎、町の事情があって今の小中学校になっている。山ノ内町はまねをするのではなく4つの学びを柱にさらにブラッシュアップしてインパクトのあるものにすることでメリットになる。
- ・小学校を2校残して分離型の小中一貫を謳っても、各学校、学年別で活動してしまうと今の運営体制と変わらない。現場から見ればそういう印象が非常に強い。小中一貫は施設一体にすることで、いつでも一緒に活動できることが望ましいと思う。

(委員)

- ・審議会の中で3校を1校統合するという意見が、こどもたちのためになるということを多くの委員が発言している中、未だに南小と西小の2校を残すという意見が出ることで、東小のこどもたちが南小と西小のいずれかに分かれることになってしまう。これまで一所懸命議論してきたことが、また初めからやり直さなくてはならなくなる。2校を残すという案は反対である。

⇒ (委員)

- ・南小を残すという考えではなく3校全てを一旦廃止し、その上で校舎を2か所活用し、南小と西小するという理解してほしい。
- ・こどもの人数が減って学校統合しようとなったとき、本当であれば大きい場所へ1か所に集まればよいが、今までの経過では中学校敷地は狭い、東小は急傾斜の問題で危険ということでダメになった。それであれば3小学校を1校にするのではなく2校にして歩いて行ける範囲の学校を活用すればよいという考えである。その中で東部地区のこどもたちが通う学校は分かれてしまうが、それが嫌だと言って統合ができないのであれば、こどもたちにしわ寄せがいくことになり問題である。
- ・以前の資料に示されたイメージ図の中で、新校舎の体育館の大きさを図面上で計算したら300㎡程となり、ほなみふれあいセンターの軽運動室ぐらいの広さしかなく狭いと思う。そこでワクワクする教育ができるのか疑問である。広いグラウンドと広い体育館がありゆったりした環境で学べる2校案を提案している。

(委員)

- ・先ほどの意見で、2校を残すというメリットがよくわからない。歩いて通える範囲というのは大事なことであるがそのほかにメリットはあるのか教えてほしい。

⇒ (委員)

- ・2校案のメリットは、既存校舎を使うため早く統合ができる。余計な工事せずお金がかからないで統合ができ、スクールバスが新たにいらぬ。歩いていける距離に学校があるということで、「早い、安い、近い」がメリットである。

- ・廃校となる学校の後利用を考えるのが1校だけであり、東部地区はこれから魅力ある地域になっていくので、いくらでも後利用の活用方法がある。

(委員)

- ・今の意見で委員の皆さんが賛同できたかということになるが、私は今の話がこども目線でないところが1番のデメリットではないかと思う。歩ける距離に学校があることは大事であるし、お金をかけないほうが将来のこどもたちの負担が減ると言われればこども目線かもしれないが、こどもたちのために教育にはある程度許される範囲でお金をかけたいと思うのが、私たちが経験してきた考えではないかと思う。
- ・学校の中で7～8時間近く一緒に長い時間を過ごす環境やその教育を考えれば、少人数でいるより大人数で教育も一貫して行う形がいいと多くの皆さんが感じていると思う。
- ・私自身は先ほどの2校案の3つのメリットを聞いて、素晴らしいという気持ちにはならなかった。審議会で皆さんから色々な意見を聞けば聞くほど、3校を1校統合して義務教育学校で中学校敷地にするのはいいなと思った。

(委員)

- ・こどもワクワク教育未来ビジョンについて、スポーツ芸術の内容の中にあるオールシーズンで幅広い分野のトップアスリートを支える環境づくりを進めると書いてあるが、これからの予定などがあれば教えてほしい。

(委員)

- ・今までの小学校の歴史はとても大切だと思うけど、これからのこどもたちが新たな歴史を作っていけばよいという考えもあると思うので、義務教育学校にすることは賛成である。

(委員)

- ・南小はいい学校だと思うので気持ちもわかるが、こどもたちの人数が少なくなり統合をするならば、1回で3校を1校統合して場所は町の真ん中にある中学校でよいと思う。
- ・歩いていける距離に学校があることは大切だと思うが、通学中に野生動物の出没や夏場の猛暑による熱中症の危険等があるので、スクールバス等で登下校することもいいと思う。

(委員)

- ・須賀川のこどもたちは歩いて通える距離ではないのでスクールバスで西小や中学校に通っている。統合先が中学校になれば小中学生が一緒のバスで通学できるので良いと思う。
- ・信濃小中学校の視察資料を見ると、一致団結する力が強く思いやりがあるという内容を聞くと義務教育学校にするのがいいなという感じを受けた。
- ・私の家はこどもが中学生と小学生、保育園にそれぞれ居て、こどもたちの意見を聞いた結果、小学校が中学校に行けば楽しいと言っていた。一人っ子のこどももいるので異年齢のこどもたちと話せる機会が増えて楽しいのではないかと思う。

(委員)

- ・小中一貫はいいと思うが新しい学校を作る際、多額な建設費用が掛かるのであれば西小を改築して3校を1校統合にしたほうが良いと思う。西小は桜の木があっていい環境だと思う。中学校の周りは住宅に囲まれ、グラウンドや体育館も狭いといったイメージがあるので、西小のような広い場所で学んでほしい。
- ・小学校と中学校は別々の学校で学んだほうが良いと思う。

⇒ (事務局)

- ・学校敷地が狭いという話について、今までは中学校敷地に小学校と中学校を別々に設置するといった考えであったため、特別教室などをそれぞれに設置する必要があり狭くなってしまうが、義務教育学校になれば小中を一つにした学校になるので、体育館も中学校の体育館を使いながら小体育館を設置することで、小中学生が両方の施設を使うことができるようになる。また、中学校の空き教室も有効活用することで新たに作る校舎を大きくする必要がなくなる。
- ・信濃小中学校と山ノ内中学校の敷地面積はほぼ同じであり、義務教育学校であれば十分に入ることができるため狭いということはない。
- ・西小での統合となった場合、耐震工事の必要はないが建設から40年経つので大規模改修工事を行う必要がある。大規模改修工事でおおむね18億円ぐらいの経費が掛かり、それと合わせて増改築の費用が上乘せされる。
- ・先に述べた部分を踏まえて、より無駄なくコンパクトな校舎で児童生徒と一緒に学習、交流できる学校づくりをするには、義務教育学校にすることが良いと考え提案している。

(委員)

- ・小学校を2校残した体制と小中学校1校にした場合、年間どのぐらいランニングコストがかかってくるのかが分かれば比較して理解しやすいと思う。

⇒ (事務局)

- ・第3回審議会で小学校にかかるランニングコストの資料を提示している。1校あたり年間5,000万円の経費が掛かっている状況である。中学校については積算していないが、東小と同規模の建物面積であるため、人件費等により多少多くなると考えてほしい。
- ・統合によって1校になることで、各校舎の維持管理費や施設修繕費といった部分がかなり削減できると思われる。

(委員)

- ・信濃小中学校の建設は補助金が9億4,000万円となっているが、総額いくらかかっているのか。また、補助率はどのぐらいなのか。

⇒ (事務局)

- ・建設費用に22億円程度かかっており、そのうち補助金が約10億円で、残りの経費は学校債や過疎債を活用している。補助率は基本的には50%である。

(委員)

- ・信濃小中学校の建設費用22億円は平成24年頃の物価だからできたが、今、同規模のものを作れば物価が高くなっておりもっと費用が掛かる。新聞に川上村で統合小学校を作る経費に47億円が掛かるということで議会で否決になった記事が出ていた。
- ・山ノ内中学校は6年前に大規模改修をしており、その30年後には建て替えの時期が来る。中学校校舎の全面建て替えの時期が来た時の対応はどのように考えているのか。同じ時期に建てられた役場庁舎は長寿命化の大規模改修をやる時期なのに全く計画もなく、小学校の長寿命化工事だけ話が出るのはおかしいと思うので説明してほしい。

⇒ (事務局)

- ・施設には維持管理費もかかるが一定のところで大規模修繕も必要になる。公共施設の維持管理計画があり、それに沿った形で考えているとどこかの時点で建て替えということになるが、今の時点で最善と思われるのが大規模改修をした中学校を活用しつつ、そこに新たな校舎を作ることが現状の中でよりコストが抑えられるものではないかと考えている。

(委員)

- ・私は義務教育学校にして中学校の場所に立地するという方針で進めてもらいたい。何度も同じ議論をしていると思うが、そろそろ決着をつけたほうがよい。こどもワクワク教育未来ビジョンについては大変すばらしいと思う。

(委員)

- ・2校案のメリットで統合が早くできると言っていたが、学校を閉じることはとても大変であり、閉校作業を丁寧に行う必要がある。ゆっくり時間をかけて進めていった方がよいと思うのでメリットとは思えない。また、安いという点については1校あたりのランニングコストが結構かかっているので、イニシャルコストはかからないかもしれないがあまりメリットには感じない。
- ・先ほど川上村の議会で小学校統合に関する予算が否決されたという話があったが、委員に町議会社会文教常任委員長がいますのでお聞きしたいが、統合については何十年も議論され、この審議会でも何回も議論している中で、このような内容ではダメだとか、予算が多いと否決されてしまうものなのか、色々決まりかけていたものがそこで止まってしまうと困るので、議会はどのように関わるのか教えてほしい。

(委員)

- ・議会の小学校統合の関わりについては、この審議会の答申を受けて教育委員会が方針を決定し、町部局との総合教育会議の中で方向性を決定する。その後、どのような学校をどこに設置するかというところで、学校の設置条例があるので議会において議決することで関わる。もう一つは学校を建設することが決定し、その建設予算に対して議決することとなる。議会は設置条例と予算に対して議決する権限を持っている。この審議会ですっかり議論してもらったうえで、教育委員会がどのような学校にするかをしっかり決めてもらった上で判断することになる。
- ・町議会において10月3日に議会全員協議会という公式な場で、議員間討議を行った。そこで小学校の統合について各議員3分間自分の考え方を述べてもらった。1月以降の議会報告会で意見集約の報告を行う予定でいるが、ここでは統合の在り方や統合場所についてまとめたものを報告させてもらおう。
- ・統合の在り方について13名中、1校統合にするが9名、2校案が1名、どのような形は決められないが統合するが1名、統合の必要はなしが1名、意見なしが1名となっており、1校統合の内9名は義務教育学校を含む小中一貫校及び連携の考えでであった。
- ・統合の場所については中学校敷地が7名。そのうち数名より条件付きで敷地面積の拡張ための用地を確保してほしいという意見があった。その他は西小学校が1名、残りは意見がまとまっていないという意見なしであった。

- ・議会から直接審議会に意見を言うことはできない。また、議員個人が教育委員会への一般質問等を含めて教育や学校統合について質問や提案をすることはあるが、議会としての意見ではないので誤解のないようお願いしたい。
- ・私個人の考えは、こどもワクワク教育未来ビジョンの提示を受けて教育内容や考え方、方向性がしっかり進められるのであれば、義務教育学校という形が良いと考える。
- ・今日の意見にあった小中の節目については、私たちは6、3年制しか経験していないので節目が大事というイメージにつながると思う。信濃小中学校ではそれを補完する意味で前期課程の6年生の時には修了式、後期課程の9年生で卒業式を行っている。6年生の中には他の中学校へ進学する児童もおり卒業証書的なものが必要になるため、実務的に取り組まれている部分も伺えた。
- ・義務教育学校がいいなと感じるのは、信濃町のように4、5年制の学校になれば中学校校舎の教室も使うことができる。小学校施設をすべて中学校敷地に入れようとするから狭いというイメージがあるが、1から4年生までの4学年分の校舎を作り、残りは中学校施設に入るということであれば、当初想定していた1から6年生が入る校舎よりは、中のスペースを広く使えると思うので、そのような考えがあれば聞かせてもらいたい。

⇒ (事務局)

- ・義務教育学校に決定したわけではないので、あくまでイメージとして説明したいと思う。義務教育学校になることで学校が1つになるため、特別教室は中学校にあるものをベースに利用し、不足する教室部分をプラスして作る事となる。普通教室も1つの学校になるので中学校校舎を活用しながら、足りない教室を新たに作るという形になる。4、5年制にした場合の初等部のみの整備となれば、広いスペースで校舎レイアウトをすることが可能になり、必要な教室数も減ってくるので十分に校舎のスペースが確保できると考えている。

(委員)

- ・私の考えは教育委員会が示した考え方でよいと思う。色々議論した中で折り合いがつかないところではないかと感じている。その他で2点ほど意見を述べたい。
- ・2校案は統合が早いという話があったが、学校を閉校する時と開校する時はより丁寧に行う必要があると感じている。
- ・こどもまんなかということは大前提である。冒頭にPTA会長から話があったが、各学校にPTAがあり、役員に関わる事など色々難しい点があると思う。3校が統合し義務教育学校になることで、学校を支えてくれる保護者の皆さんも新しいPTAを作る事によってワクワクが出てくると思う。これからは、こどもだけではなく地域の人や保護者とも仲良くなれる新しいコミュニティが作れるような学校になれば、ワクワクする山ノ内町の教育カリキュラムになると思う。

(佐藤副会長)

- ・費用面は大事であるが、こどものことを1番に考えたとき、2校案は今まで一緒に学んできたこどもたちが離れ離れになってしまう。長い間審議してきた中で委員からは、3校を1校にして義務教育学校という意見が大半であったと感じる。場所は中学校敷地を上手に

活用してもらいたい。信濃小中学校は広いと感じたが、山ノ内町は山ノ内町にあった校舎を作って行けばできると思う。

(教育長)

- ・本日も皆様の活発な意見をいただいた。昨年から2年近く統合の議論をしてきた中で、検討材料の資料を色々出したことで、混乱させてしまった部分があったことに反省している。
- ・これからの未来の子どもたちのためどのような学校にしたいか、精一杯想像力を働かせ方向性を定めていきたいと感じている。
- ・適正規模、適正配置の名前の通り議論していただきたいのは、適正規模についてこれからの子どもたちにとってどのような規模で学ぶのが適正かという観点は重要であるが、少子化という時代の流れに抗うことができない状況で、今年度の出生数が30名程度になる見込みである。全町で30名ということは1クラスになってしまう中で、もっと少ない人数の規模でやるべきだという意見もあると思うので、適正規模については改めて考えていく必要が出てくると思っている。
- ・適正配置については、ハード面などの物理的な環境も大事であるが、教育の中身の部分としてより魅力的で質の高い教育を実現するために、どうしていきたいかということを考えていく必要がある。子どもたちの安全、安心は当然であるが、学びへの意欲向上などを考えて学校の配置をどうするか検討する必要がある。
- ・学校統合にかかるコストについては、これからいくつかの案ができれば金額も出てくると思うが、できるだけコストがかからないようなものにしてほしいのか、教育のためであれば多少コストをかけてでも進めていくべきであるというようなことも、これから意見としていただきたいと思っている。

4. その他

(1) 今後のスケジュールについて(説明 学校統合準備係 山本係長)

- ・審議会の会議は残り2回を予定している。
- ・次回第8回の審議会は令和7年1月15日(水)17:30から山ノ内町役場401会議室で行う。会議通知は既に机の上に配布している。

5. 閉 会